京城新報

●新聞料　▲一ヶ月前金二十錢▲三ヶ月前金五十錢▲六ヶ月前金壹圓▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦　五月十三日
發行編輯兼印刷人　秋山忠三郎
京城西小門通
發行所　京城新報社　電話六六三番

●新聞紙の嚆矢

抑も今日歐米各國に行はるゝ新聞紙は其の由來する所極めて遠くして之が起原並に沿革に關する諸説又一ならず、今信據すべき書籍に就て之を調査するに近代の歐州大陸に於て最も古き新聞紙として稱せらるゝは西暦一千五百六十四年（我朝の正親町天皇永祿七年）伊太利のヴェニス共和政府に於て土耳其と戰端を開きし際其の戰況を報ずる爲め毎月一回の新聞紙を發刊し之を偏く國内に頒布したることありしが是れ蓋し新聞紙の嚆矢ならむか、而して當時は活版印刷事業の未だ幼稚なりしを以て其の發行せる新聞紙は皆な悉く筆寫したるものなりしといふ而して彼の印刷したる新聞紙の起因に就ては西暦千五百八十八年（我朝の天正十六年）英國エリサベス女皇の朝時の宰相ウェリヤム、バーレーの創刊に係るの一説あり其の證據とする所は當時の新聞紙標本なりとて現今英國の古代博物館に保存せらるゝ其の第五十一號及第五十四號の三新聞にして此の説に從へば英國が曾て隣邦西班牙との戰爭の際英相バーレンは自國防備の爲め其の戰況を細さに國内に報道して國民の愛國心に訴へ以て國民の敵愾心を鼓舞激發せんと欲し新聞發行の計劃を立て之を「イングリツシ、マーキユリー」と題し、バーレン自ら筆を執りて國事を論議したりといへり然れども此説たる其の後幾多の考察に依り其の根據たる博物館に現存する三葉の新聞紙はエリサベス時代の遺物にあらずして全く後人の手に成りたる僞造物たること判明したれば此説今は全然其の根據を失ふに至りぬ、果して然らば印刷せられし新聞紙の始めて發行せられたるは何れの時代なるか、則ち西暦千六百二十二年（我朝の元和八年）英國天主教會の牧師ニコラス、ボールンなる者、佛國、伊國、日耳曼、西班牙又は和蘭其の他諸國より新に達する珍奇なる報道を蒐集記載するの目的を以て、ゼ、ウイクリー、ニユース、フローム、イタリー、ジャーマニー、エトセトラと題する週刊新聞を倫敦に於て發行したりしが是ぞ所謂一般印刷したる新聞紙の確實なる嚆矢にして又一般歐州に行はるゝ公説なり而して又英國の新聞紙が國會議場の光景及議員の討論等を掲載するに至りしは一千六百四十一年（我國の寛永八年）なり又廣告を掲載するに至りしは夫れより七年を過ぎし后なりといふ（瀧興治氏談）

●暴徒討伐情報

△咸興より出したる討伐隊は六月二日咸興と其東北にある赴戰嶺街道上に於て洪範道の率ゆる賊を討ち其十九を殪し火繩銃十四其他若干品を鹵獲す△忠淸北道淸州分遣所隊長已下十名は六月二日淸州東北約三里細橋に於て員數不明の賊を討ち之を潰亂せしむ△公州守備隊より出たる上等兵已下五名は五月廿八日公州西北方雞鳴附近に於て三四十名の賊を潰亂せしめ其一を殪し若干を傷く△全羅北道淳昌分遣所より出したる騎兵上等兵已下五名は六月一日淳昌の南方約一里半に於て約二十の賊を討ち九を殪し一を捕へ銃器四其他若干の鹵獲品あり又同分遣隊長以下十三名は同日淳昌西方萬水亭の東方三里の地に於て約四十の賊を討ち八を殪し銃器其他雜品若干を鹵獲す△江原道平海憲兵分遣所の下士已下七名は五月廿九日平海萬陽兩郡界の山中に於て約二百五十の賊と交戰し之を擊退す△黄海道砂利院憲兵分遣所より出したる憲兵四名は五月廿九日鳳山郡内に於て賊二名を捕へ火繩銃四火藥若干を押收し海州邑内に於て賊一名を捕へ火繩銃一を押收す△京畿道楊根憲兵分遣所の憲兵は六月二日諸順賊徒の密告により埋藏せし雷管火藥拳銃實包藥莢其他若干を押收す△大邱警察署長已下は五月三十一日霞珍郡内に於て約百二十の賊を討ち之を潰亂せしめ其十二を殪し多數の負傷者を生ぜしめ銃器八其他雜品多數を鹵獲す我警察官一名負傷す△江原道金化守備隊の中尉已下六名は巡査三名と共に五月廿九日金化郡内を捜索し賊二を捕へ火繩銃二を押收す△金化守備隊の少尉已下八名は五月三十一日金化西南地境洞に於て賊二名を捕へ火繩銃二其他若干を鹵獲す△黄海道延安守備隊の特務曹長已下七名六月三日延安東北一里に於て賊四を捕へ小銃二を獲△咸南洪原分遣哨長已下九名は六月四日洪原西北三里の地に於て約五十の賊を擊退す賊の死傷少からず△精城守備隊より出したる下士已下十名は五月三十日精城西北一里に於て賊三を捕ふ△春川守備隊より出したる下士已下五名は巡査數名と共に五月二十三日春川東北約五里の地に於て約二十の賊を討ち四名を殪し一名を捕へ銃器其他若干を鹵獲す△黄海道海州憲兵分遣所の憲兵下士已下六名は五月三十一日海州郡内を捜索し賊一を殪す

小説　新不如歸（三十三）

篠原嶺葉著

敏男が愉快さうに笑ふに代へ、百合子は何を感じたか、急に物案じ顔に打沈むで居たが、やがて敏男の顔を瞻仰げ。

「ねえ貴方、兄の辭では露國と戰爭が必ず始まるやうに申して居ましたが、眞個くでございますか。」

「まだ確にそれと極つた理ではないが、先づ十中の八九迄は、始まるだらうと思ふ。」

「戰爭が始まつても貴方御出征なさるやうな事は無いでせうね。」

「何故。」

「でも、參謀官で本部詰でいらつしやるもの。」

「いくら參謀官だつて、戰爭が始まれば奈何變動するか知れないよ。」

「ですけれど先づ大抵は大丈夫ですわね。」

「若も私が戰爭にでも出るやうになつたら百合さん奈何する意だ。」

「私然うなりましたら、一緒に連て行つて戴きますわ。」

「何處へ。」

「戰爭へ。」

「百合さんをかへ。」

「はあ。」

「冗談ぢやない、何程可愛い女だつて、自分の妻を戰場に連て行く人があるものか。」

「だつて文明國では、皆んな連て行くぢやありませんか。」

「いくら文明國で連て行つても、日本の軍人は然う云ふ理には行かない、私は可愛い百合さんの事だから、連て行くとしても軍規が許さんから為方がない。」

「本當に可厭な軍規ですね、許して下だすつて宜さそうなもんですわ。」

「若も戰爭が始まつて行くやうな事にでもなつたら百合さんはどうぞ阿母さんと一緒に仲能く留守を為て居て下さい。」

「それは致しますけれど。」

と、言淀んだ。

「けれど可厭か、はゝゝゝ。」

百合子も微笑を浮べ、

「可厭ぢやございませんけれど、何だか心細うございますわ。」

「けれども軍人の妻は、その夫が戰場の露となる事は、豫め覺悟為て居るものなんだから、百合さんなんかもその決心で居て下れなきや不可ないよ。」

「うりや私だつて西郷の娘です、能く承知して居ます、居ますけれども眞個戰爭は可厭ですよ。」

と、何だか斯う、先刻の活々した様子は影を隠して、非常に心細さうな顔色で、何事か一種の恐惑に襲はれた様子である、かくと見て取つた敏男は、殊更呵々と高く笑ひながら、

「こんな話を為てると、もう戰爭でも始まつたやうだね。はゝゝゝ始まるか始まらないか解りも為ないに。」

と、努めて百合子の心を愉快に導かうとした。果して此辭は非常に効驗があつて、百合子も道理と思つたか、莞爾と笑ひを催ふした。

兩個が樂しく語らう間に、日は何日しか海の彼所に落ちて、薄ら寒い濱風が何方からともなく吹き渡つて來た。敏男は思ひ出した如く、百合子の手を取つて元來た途を徐々と招仙閣に皈つた。そしてその翌る日の夕方、樂しみ多き新婚旅行を了へて無事に東京に皈つたのである。

京城勤報

鴉片喫吸の防遏

鴉片害毒の恐るべきは何人も知る所なり、一度之を喫吸して睡眠の快を覺ゆるものは毒と知りつゝ棄する能はず、從て其傳播力の猛勢なる驚く可き者あり、清國政府の鴉片問題に窮窘するや既に久し、今に之を退治し得ざるのみならず、益々傳播せんとす韓國人は支那人の如く鴉片を喫吸するもの少なかりしが、頃近頃に喫吸者増加し、其害毒を受るもの頻々たり、從來と雖も鴨緑江附近より平壤には間々喫吸するものありしも極て少數なりき、然るに近來は駸々として増加し、啻北韓地方のみならず、全國に亘りて傳播し京城の如きは非常の速度を以て増加せり、恐るべき害毒を受けて病み且つ死するもの連續せりと聞く、是れ決して等閑に付すべきものならんや、

鴉片の毒に當るものは漸次に身体衰弱し勞働に堪へざるに至り、其强烈なるは直に死するに至る、之れ余輩の言ふまでもなく何人も知る所なり、支那人の如き勤勉なる種族と雖も鴉片喫吸の爲には大なる生産力を減退す、韓人の如き遊惰放逸の民は更に生産力を減ずべし、由來韓人は憂鬱怠惰にして眠を貪るの僻あり、其惡僻ある處に更に鴉片を以てする恰も燃る薪に油を注ぐが如し、渠等が喜で之を迎るも當然ならずや、渠等が唯一の快樂は陰氣なる温突内に酒色を擅にすることなり、渠等が此快樂を縦にする精力涵養の爲に人參其他の藥を盛に用ゆるは世の知る所なり、斯くして此快樂を貪ては眠る身体の衰弱せざらむとするも得可けんや、然るに新に鴉片睡眠の快を覺ゆ藥等に適當の快樂劑なり、其傳播の激甚なる敢て怪むを要せんや、さなきだに遊惰放逸にして生産力少く之が爲に亡國と悲觀するもの多し、鴉片問題の忽にすべからざるは之が爲なり、人道の上より論ずるも之が防遏は急要の問題ならずや、

此防遏禁止の問題に就ては當局者に於て既に方法を講ぜられしならむ、殊に人道を尊らとせらるゝ統監あり、到底輕々に看過せられざるや知るべきのみ、唯余輩は未だ之が實行を見ざるを憾とするものなり、

惟ふに支那人の至る所此害毒の必ず伴ふ、米國に新嘉坡に比律賓に何れも其土人に傳播せしむ各國の政府は極力之を防遏するも容易に根絶せず、韓國の如きも支那のジャンクにより密輸入さるゝ也、先づ之が取締を嚴重にすること肝要なり、一方に於ては能く鴉片害毒の恐るべき事を知らしむるを要す各學校に於て職員をして生徒に向つて之を説明せしむる如きも可なり、其他幾多の方法あらん、余輩は當局者に於て其方案既に成れることを信ず、之れ當局者として成案あるべき筈なればなり、余輩は唯其實行を速にせんことを促すのみ、

▲鐵道郵船社員の行賞

各鐵道及郵船會社員に對し論功行賞發表せらる内元京釜鐵道會社員古市公威は勳一等大屋權平は勳二等足立太郎は勳三等川崎寛夫竹内綱大江卓佐藤嘉太郎は各勳四等に叙し何れも瑞寶章を賜はる（十日發）

●漢城便り

▲伊藤公が韓人に對する三年の夢正にさめ際に近づき候樣相見え申候元々恐ならざる公のこと故何時か此事あるべしとは記者の豫期せしところに有之候併し今となりては已に遲し遲しに御座候さりとて全然覺めざるよりは幾分か增しならんと被存候

▲地方官大淘汰は慥に必要に御座候併し韓人に代ふるに韓人を以てす其結果蓋し同樣ならんと被存候任命の手續方法を變更したればとて韓人の特性は變じ得らるゝものには無之と被存候

▲記者は本紙に於て邦人觀察使任命の議を屢提唱致候今は乃ち實行の機に有之候サシ詰地方行政の長官たらしむべきものは理事官ならんと存候此は他の保護國に於ても追々例の有ることに有之候

▲第一銀行券の改造は何の必要によりて爲されたるや記者の知らんと欲するところに有之候澁澤男の肖像が流通上何の邪魔にもならざりしことは記者の認むるところに有之候

▲或人曰く一銀券の改造は韓本主義の祟りたるものなりと果して而らば咄々怪事と存候一銀にして緊褌一番するなくんば發行權にまで祟りの來ることもなからずやわと憂慮被致候

▲商業會議所議員の半數改選も近きにありとの事に御座候此機を以て記者は特別議員創設の事を提言致候統監府地方部長鐵道運輸部長通信當局者各銀行の支配人など特別議員と爲すは會議所の働き上慥に有効ならんと被存候

東京電報

▲選擧運動費

政友會本部の調査に係る撰擧運動費は一人平均七千圓なりと（十日發）

▲樞密院會議

本日樞密院會議を開き帝國大學事務官特別任用令に關する件及び臺灣總督府官制革正の件を可決せり（十日發）

雜報

●韓皇の五宮展拜

韓皇には皇后と同乘し昨日午前十一時十分敦化門出御既記の如く毓祥宮、延祜宮、宣禧宮、景祐宮の五宮を順次御展拜あらせられ午後四時三十分無事還御あらせられたり鹵簿は例の如く公式にて各大臣大官供奉し儀仗騎兵及び巡査等前後を警衛し奉り沿道は例の通り警戒最も嚴重なりし

●法官會議

新設裁判所幹部即ち院長、檢事總長、所長、檢事長の裁判事務に關する打合會を開催せらるべき事は既報の如くなるが愈々本日午前九時より法部樓上に於て開會することゝなり各地方の法官は何れも昨日入京せり其の任地及び氏名は左の如し但し此等の諸氏は共に今回新任せられたるものにして未だ任地に赴かず日本前任地より來京したるものなり

平壤地方裁判所長	判事	高木直一
海州同　所長	同	西　平
公州同　所長	同	勅使河原健之助
平壤控訴院長	同	永島巖
同　院檢事長	檢事	向井巖
咸興地方裁判所長	判事	岩本以明
光州同　所長	同	玉置珠
公州同　檢事長	檢事	岩田孝慈
咸興同　同	同	鄕津友彌
光州同　同	同	北村五七郎
大邱控訴院長	判事	土井庸太郎
同地方裁判所長	同	鳥山虎也太
同控訴院檢事長	檢事	黑川穰
同地方裁判所檢事長	同	吉田雄六郎
晉州地方裁判所長	判事	鈴木伍三郎
平壤同檢事長	檢事	兼重次郎
晉州同	同	關口半
海州同	同	青木幹造

以上諸氏の外既に着任せる大審院長同檢事總長以下京城控訴院同地方裁判所の幹部も本會議に出席す

●昨今兩年及平年五月の氣候

去月中仁川に於て觀測所の實測したる結果と昨年五月に於ける氣候とを比照すれば左の如し

	四十一年	四十年	平年
平均氣溫（華氏）	五七、二	五七、四	五九、五
平均最高氣溫（同）	六四、九	六四、六	[illegible]
平均最低氣溫（同）	五〇、五	五一、四	五三、二
最高氣溫（同）	七四、三	七三、七	[illegible]
同上起日	一日	廿二日	[illegible]
最低氣溫（華氏）	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同上起日	四日	十日	[illegible]
晴天日數	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雨天日數	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雨量（粍）	[illegible]	[illegible]	[illegible]

要する本月の氣溫は昨年に比すれば平均最低八低度なり外は概して同樣なれども平年に比すれば悉く二度乃至三度低し又晴天日數は昨年より多く雨天日數は少なく[illegible]多し又雨量は平年よりも少く昨年よりも少くして僅に平年に過ぎざりき

●觀察使交迭に就て

宋秉畯氏の内部大臣となるや地方行政改善の第一着手として觀察使中新知識に乏しく新制度を解せざる者六七名を罷免して新進の士を任用すべき事を明言し同時に觀察使四名辭表を提出すると共に八日の閣議に於て其の後任者及び此の以外二三觀察使の交迭に關し審議したる模樣ありしため今回の交迭は宋氏が内部大臣となりたる後に於て起りし問題なるが如き觀あるも元來此の問題は久しき以前より統監が地方行政改善上其の必要ありと認め居りし處にして當時の任内部大臣も統監の意中を諒としたるが李總理の心中別に考ふる處ありしものゝ如かりしも偶々觀察使を召集して其の意見を徴したる結果は彌々交迭の必要ありとするに至り遂に閣議に於て六七名の罷免を決議したるが任氏の内相にては其の後任者選定上統監の意中を容易く決行せしむる上に多少の障害あり而して宋氏は曩の閣議に於て觀察使六七名の罷免を決したるに對し多大の不平ありて統監邸に於ける觀察使會議の席上の如き宋氏は觀察使の能力に關し日本語を以て憚り無く批評し罵倒したる程にて當時宋氏が如何に心中の平かならざりしかを知るに足る故に宋氏の此の不平と任氏の内相としての觀察使後任者選定上の障害は大臣交迭の一原因をなしたるものと觀る事を得べく後任觀察使の人選に關しては宋氏の意見に從ふ事大なるべきも現任者の罷免に關しては宋氏内相たる以前より既に決せられ居りしものなり因みに今回辭表を提出したる四觀察使中咸鏡北道の尹甲炳氏は留任する事となりたる筈なり

●刑法改正案審議結了

新任在京法官及び法部の主幹部諸氏により て審議中なりし現行刑法改正案は既に審議を了りたるを以て遠からず内閣會議に付し統監の承諾を經たる上裁に審議濟となれる訴訟手續法と共に發布せらるべしと云ふ

●次官交迭說に就て

今回の大臣交迭の結果次官中二三の交迭あるべしとの說をなすものあるも元來今回の大臣交迭は此れを大臣側より觀る時は李宋兩氏勢力の均衡を保つために起りたるものとするを得べく又此れを統監の側より見る時は地方行政改善の必要上統監の意見を實現する上の便宜上宋氏をして内相の地位に當らしめたるものとするを得べくして今更次官を交迭するの必要なく其の交迭說を傳ふるは韓國に於ける次官の位置を解せざる者の想像に過ぎずと信ず

●郡守の新任交迭

全國郡守中目下缺員の位にあるもの四十九名あり又地方行政改善の必要上觀察使の交迭と共に交迭すべき郡守少なからざる趣きにて右兩人共漸次新任或は交迭せらるべしと云ふ

●賊徒討伐情況

△全羅南道憲兵分遣所の憲兵六名は六月二日谷城郡内に於て約七十の賊を討ち其十二を殪し多數を傷け小銃九を鹵獲す△江陵警察署分署の巡査二名は同地守備隊の少尉已下十六名と共に五月二十六日江陵南方七里に於て約八十の賊を討ち十九を殪し若干を傷く△平安北道昌城守備隊の兵卒六名は警察官と協力し五月五日朔州郡内に於て約三十の賊を討ち一名を殪し數名を傷く銃器其他若干の鹵獲品あり△全羅北道求禮分遣隊長已下七名巡査一は五月廿八日求禮東南方一里半に於て十數名の賊を討ち其三を殪す△全州守備隊より出したる討伐隊は六月四日全州南方約四里に於て約七十の賊に遭遇せしが賊は直に逃走し討伐隊は之を追擊中なり△全羅南道高敞分遣隊より茂長に連絡の爲め派遣したる騎兵二名は六月三日茂長の東方約一里に於て約五十の賊に圍まれたるの急報に接し同分遣隊長已下八騎は急行赴援し賊を潰亂せしめ五を殪し若干を傷く我乘馬一即死せり△全羅南道茂長分遣隊の討伐隊は六月三日茂長の西北方約二里に於て約七十の賊を討ち九を殪し一を捕ふ△江原道蔚珍守備隊より出したる少尉已下の討伐隊は六月五日蔚珍西南五里に於て約七十の賊を討ち廿七を殪す△韓國第一巡査隊は六月一日原州郡内に於て賊一名を捕ふ△大邱警察署の日韓人巡査四名は六月七日大邱郡内に於て賊を殪し銃器三其他若干を鹵獲し翌八日更に一名を捕ふ

●臺灣に於ける商業使用人協會

商業使用人と云ふ事は近頃商業界に取りて最も重要なる問題となり其品性を修養し健康を保護し報酬の程度解雇の豫告期間其他總ての上に於て使用人を保護し使用人をして其途に安んぜしむると共に雇入主の利益を保護し顧客の便利を謀り安固にして節制ある家族的關係の下に商家の目的を果さしめ使用人の任務を盡さしめん事は今や商業家に取りて最も緊要の事柄なるべし然れども其事柄たる頗る廣汎にして或は舊慣を打破する事あるべし又は弊風の改善し難きものあるべく今日の商習慣上未だ此の問題に對し適當の措置方法の研究されたるなく充分の解決を見る能はざるは最も遺憾の事と云ふべし就中本島の如きは領臺後僅々十餘年未だ全く軍政時代の亂雜なる商業の氣風を脱し去らず加ふるに人情風俗の異なりたる内地各都鄙人の集合なれば主人と使用人との間に於ける關係も内地の夫れに比して甚だしき懸隔あり一例を擧ぐれば解僱廣告の多き店員の不仕末社員の失態頻出する所以は上記雇傭關係の缺點に基因したるものなるを疑はず聞く所に依ば臺北の有數なる商店間にて此商業使用人協會を設立し全市の商店及び使用人を網羅して相互の監督を爲し臺北に於ける商業使用人の品性を高むる爲め修養に重きを置き身上の安固を與へ專心顧客の便利を計り業務に忠實ならしむるを目的とし此の獎勵方法として期滿賞與を與へ特に功勞多きものに對しては表彰し又使用者退轉の場合に於ても行爲の證明を爲し前途の利便を計り又使用人の不正行爲放埒なるより解雇の場合に對しては其實情を精査し相當に處分して他を戒飭し專ら雇主と使用人との間に立つて昔日の弊習を一掃せんとするものゝ由

●豫備金支出裁可

内閣會議の決議を經て上奏裁可を得豫備金中より支出されたる額は千百八十四圓卅七錢法部任用旅費、千四百四十一圓七十一錢度支部缺損補塡金、三千百圓追撥餉米代金、千八百九十圓軍部致官慰勞金、二千七百六十二圓四十七錢臨時軍用及鐵道用地調查會費、七百七十七圓十九錢度支部追撥俸給、二十八萬五千圓警備電話設備費六千二百九十八圓二十七錢、暴徒掃鎭費一萬四千三十九圓特設巡査隊費四千五百圓臨時機密費等なり

●浦項日本人會の設立

慶尚北道延日郡浦項に於ける日本人は客年末以來著しく增加し今日に於ては永住的のもの二百名に達し此れ只一時的の漁業者を合すれば三百余名に上り尚漸次增加の趨勢に在り今春以來同地有志間に日本人會設立に關し協議中なりしが幾日遂に之れが設立認可を申請せしに客月七日釜山理事廳より會則等認可せられたるを以て四月廿八日役員選擧を行ひ左の通り當選し目下認可申請中なる由

會長	岡本利八	副會長	中谷新三郎
幹事	增野熊雄	評議員會議長	鎌田千代吉
評議員	是永傳藏	評議員	福島源吉
同	富吉松次郎	同	稻田仲次
同	塚原新一	同	古川政一郎
同	西島二郎		

●韓字新聞發賣禁止

布哇にて發行する合成新報十九號桑港にて發行する共立新報八十二號は何れも治安に妨害あるものと認められ内部大臣より發賣頒布を禁止せられたると同時に之を押收したり

●金銀貨地金の輸出入高

韓國各港に於ける五月中の金銀貨及び地金の輸出入高は輸出四十五萬七千七百九十五圓、輸入十六萬五千二百三十九圓にして之を細別すれば輸出金貨及び金地金四十四萬千百八十五圓銀貨及び銀地金一萬六千六百十圓、輸入金貨及び金地金十圓、銀貨及び銀地金十六萬五千二百二十九圓なりし

●大韓醫院の落成式

兼て建築中なりし同醫院は既に落成せしを以て近々落成式を擧行する由なり當日は韓皇帝にも臨御あらせらるべしと云ふ

●李學相の送別

李學部大臣は今回代議士となりて學部書記官を辭したる三土氏及び外國語學校教師を辭したる英國人ハリハツクス氏の送別を兼ね目下學事視察のため來京中なる韓國留學生教育に功勞ありし勝浦東京府立第一中學校長を本日夜日本人俱樂部に招き晩餐會を催す

●地方警察官の免官

豫て報導し置きたる地方警察官の依願免官中今回左の通り發表せらる

元山警察署詰	警部	荻野直十郎
永興同	同	石川與一郎
忠州同	同	野口邊茂
平壤同	同	池田五郎
平壤同	同	橋上九内
春川同	同	白木與
海州同	同	橋詰退藏
咸興同	同	岡崎愨次

（以上九日附）

錦山警察分署詰	警部	小松直之進

（六日附）

●釜山人士の北韓視察

釜山に於ける官民有志は先頃齋藤大佐歡迎會席上に於て同大佐の談話に刺戟されて遂に有志家の間に北韓視察隊を組織して親しく同地方を踏査する筈にて不日出發する由時は漸く夏季に入りて旅行する者漸く多からんとする時此の如き旅行隊の組織さるゝは喜ばしと云ふべきなり

公人私人

△白井巖（平壤控訴院檢事長）一昨日來京天眞樓
△永島巖（同控訴院長）同上
△鄕津友彌（咸興地方裁判所檢事長）同上
△兼重次郎（平壤同上）同上
△鳥山虎也太（大邱地方裁判所長）同上巴城館
△北村五七郎（光州地方裁判所檢事長）同上
△玉置珠（同所長）同上
△吉田雄六郎（大邱地方裁判所檢事長）同上
△關口半（晉州地方裁判所檢事長）同上
△土井庸太郎（大邱控訴院長）同上
△岩田孝慈（公州地方裁判所檢事長）天眞樓
△松浦茂作（陸軍三等主計）一昨日金澤旅館
△木下重松（釜山稅關港務官）上京中なりしが一昨日歸任
△河野正次郎（一銀安東縣出張所主任）釜山へ向へり

●水道給水期

京城水道會社の經營になる城内の水道は目下鐵管の掃除中なるが給水期は來る七月一日の豫定なりと

●近事片々

▲宋内 相亦漢城政界の流行兒となりて彼方此方で評判に上り毀譽相半ばす先づ結構

▲流行 物は廢れると昔から極て居る黒紋付の羽織と白のツルメキは滅多に廢らぬ哩

▲敢て 宋君を衣類に譬る譯ではムらぬが君は當今流行せる縞のツルメキ位か知らん

▲併し 意氣組は中々豪氣な者だ地方行政の改革は屹く圓に遣り遂げそうだ緊褌賴む

▲是か ら先が鬼が飛出すか佛が飛び出すか宋君自身も矢張譯るまい請ふ影子に問へ

▲此難 役を宋君に任せて乙う澄し込み居る完用氏が豪ひか其優劣の定るは遠くない

▲宋氏 の内相に含む觀察使甚だ多し彼の成り上り者と嘲笑せる連中亦多しとは異也

▲然る に宋君は意氣昂り先づ地方を巡視せむと云ふ之は能き思ひ付き是非決行せよ

▲地方 巡視は口丈ではないか知らむ事實に遣れば些と見上げた男だが早く遣り玉へ

▲伊藤 公の信認を一手に受けたる如き擧動隨分面白い男だかドーモ山氣が多過る哩

▲小細 工に掛けて韓國隨一だらうと或人が評したが或は然らむ到底大細工は出來ぬ

▲曾禰、子は十九日東都出發伊公は廿四五日頃當地出發と報ずる者あり大暗然あらむ

▲鶴原 君一世一代として日銀總裁を望みつゝありしが逆も物になりさうもないと云

▲政友 會連中は頻に鶴原君を陷ぎしも大勢は之を許さずと嘸や落膽の事と察せらる

▲併し 正金頭取の方は多少望みあるに似たり之でも贏ち得れば先づ本望の至ならむ

▲田尻 子行政整理に就て抱負あり府縣廢合陸海軍行政組織の變更を爲す必要ありと

▲現今 大藏大臣として適任の人を求むれば田尻子は最も好適の人材なり惜むべき也

▲無能 の松田如きを藏相に据置かねばならぬとは世の中の事は困つた者猶も窮屈也

▲適材 を適所に配置し得ざる政府家程無能なるはなし統監府の現狀は夫れ如何ぞや

▲三田 學會の演說會犬養尾崎高田竹越の四人を招く猿と犬とを一場に集めたる如し

▲配合 極て妙鎌田氏も亦惡戲を弄せるか

な沼南三叉は常に犬猿啻ならじ相顧て苦笑

▲米國 大統領撰擧ルーズベルト再選熱盛に起る當代の人傑其人氣旺盛なる亦其所也

▲假令 再選せざるもル氏たるもの亦以て榮なりと云ふべし年尙壯前途洋々海の如し

讀詩林

奈世評

懷柔策盡志難成。韓國前途奈世評。
一夜南山殘月暗。統監邸上杜鵑鳴。

皆凡骨

極目山川盡暗塵。幾人憂國又憂民。
廟堂新進皆凡骨。覇氣僅存宋大臣。

▲鐵道郵船社員の行賞

各鐵道及郵船會社員に對し論功行賞發表せらる内元京釜鐵道會社長古市公威は勳一等大隈權平は勳二等足立太郎は勳三等川崎寬夫竹內綱大江卓佐藤嘉太郎は各勳四等に叙し何も瑞寶章を賜はる(十日發)

雜報

●光岡右夫人(つゞき)

世には福德の三年目と云ふことあり趙重應も所謂有卦に入りたるか模範農場の技手たる身を以て或る日統監府の國分某より至急出頭すべき旨を通じ來りたるが之れなん趙君が大なる福音に接したる時なりき即ち李完用內閣に入りて法部大臣の椅子に据はるべく內命に接したるなり趙君爭てか跳ね上りて喜ばざるを得べき感懷胸を衝いて嬉し嬉し泣きに泣きたりと謂ふも亦理なりけり斯くて彼れは一介の腰辨より一躍して韓內閣の大官となり昔しに異る大得意事上腮を撫で上げてエヘンと濟ます身分となりたるを以て爰に其旨東京にある竹子の許に知らせたるに竹子は此の電報を受取るや之れ亦座敷の根太の拔けん程雀躍して喜びたりとか然れば直ちに趙君に祝詞を兼ねて一日も早く呼び迎へて前約の履行を迫る處ありたるに趙君も亦其の積りにして居る事なれば云ふが儘に旅費を送りて竹子を渡韓せしむる事となしぬ

去る程に其の後間も無く光子は其の父親と共に渡韓し曾て趙君が下宿し居りたる南山町の筑紫館に滯在して相變らずお忍びの趙君と蜜より甘き情交を續け居りたるが素と是れ竹子は趙君の北の方に直るべき筈なるを以て筑紫館に滯在中も屢趙君に迫りて同居をなさんとしたるも一方趙君にありては親族其他の故障あり毛色こそ同じけれ日本の女が正房に入ることは斷じて親族が許さぬ事になしたるを以て玆に趙君と竹子は儘にならぬ浮世を嘆ずること稍久しかりしが竹子の父親が並大抵の男にあらじと見ゑて普通ならば最初に趙君との關係を責むべきであるに其の事無きのみか却て其の兒の淫奔を喜び趙君程の男を生取つたる功を賞すると云ふ有樣去れば竹子が趙家に入るを許されざるを聞き一方ならず不承知を唱ゑ强談判を持ち掛けたるが前記國分某など仲裁する者ありて趙君の親族も辛つとこの事に我慢することとなり遂に多年の本望を遂げて爰に光岡竹子は韓國法部大臣趙重應の北の方に成り濟まし天晴れ其の嬌姿に數段の光彩を增すこととなりたるなり彼れが其の後太皇帝の聖斷を仰いで左夫人より右夫人に成り下りたるは少しく標緻を下げたる者なれども是れも太皇帝陛下の聖斷とあれば已むを得ざることなるべし昔しは降る亞米利加に袖はぬらさじと泣力みて大和撫子の美しさを表はしたる醜業婦もありたりとか夫れと是れとは事異なれば玆に云ふ必要なけれど光岡竹子孃こそ日韓幾萬の人に羨望されてイヤ美くしく光榮ある婦人なりと謂ふべきなれ(をはり)

●昨今兩年及平年五月の氣候 去月中仁川に於て觀測所の實測したる結果と昨年五月[illegible]の如し

	四十一年	四十年	平年
平均氣温(華氏)	五七、三	五七、四	五九、五
平均最高氣温(同)	六四、九	六四、六	六七、六
平均最低氣温(同)	五〇、五	[illegible]	[illegible]
最高氣温(同)	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同上起日	四日	一日	十日
最低氣温(同)	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同上起日	廿二日	[illegible]	[illegible]
晴天日數	[illegible]	[illegible]	[illegible]
曇天日數	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雨天日數	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雨量(粍)	[illegible]	[illegible]	[illegible]

要する本年の氣温は昨年に比すれば平均最低八低度なりし外は概して同樣なれども平年に比すれば悉く二度乃至三度低し又晴天日數は昨年より多く雨天日數は少なけれど[illegible]多く又雨量は平年より多く昨年よりは一層少くして僅に半に過ぎざりき

●西部署長の諭達

西部警察署長鈴木警視は昨一昨の兩日に亘りて署內の統首(日本にていふ戸長五十戸長の如き者)に對し左の如き注意事項を諭達したり

個人注意事項

一、邸宅に面したる道路橋梁の小破損あるときは直に修理すること

一、邸宅に沿ひたる下水の塵芥は之を掃除し塵芥容器に入れ散亂せしめざると汚泥は之を浚渫し衛生上無害の地に取り棄つること

一、道路は每日朝夕二回清潔に掃除すること但し不潔なるときは其の都度掃除すること

一、塵芥の容器は常に修理して不体裁ならざる樣注意すること

一、容器の周圍は殊に清潔になし置くこと又容器小にして塵芥多きときは更に容器を增置すること總て塵芥容器は往來の妨害ならざる場所に配置すること

一、炎天風日には邸宅に面したる道路に灑水を撒布すること

一、道路に於て米餅搗、剒木、綯繩、捏土等其他の作業を爲さゞること

一、飼犬にあらざる野犬は之を撲殺すること

一、飲食物にして其儘食するものは店賣りと行商とを問はず覆蓋を設け塵埃及蠅の附着を妨ぐこと

一、五歲未滿の兒童を道路に獨步せしめざること又兒童に袒裼裸體を爲さしめざること

一、道路に沿ひたる地上に新築家屋の取毀ち又は建增改築等を爲さんとするときは着手前必ず警察署へ屆出づること

一、傳染病患者若くは其疑ひあるもの發生したるときは警察署若くは最寄巡查派出所へ速に屆出づること

一、盜難に罹りたるときは即時警察署又は最寄巡查派出所に屆出づること

一、道路又は道路より見透すべき場所に於て袒裼裸體をなさゞること又は路傍に假臥せしめざること

一、便所にあらざる場所に大小便を爲すべからざること

一、路上に於て小兒等に遊戲又は賭技に類する行爲を爲さしめざること

一、路上に面したる溝渠の覆蓋なきものは直に取片付くること

●怪しき美人

△本町秋山商店にて反物を騙取せんとす▽

昨日午後二時半頃本町一丁目郵便局前の呉服店秋山商店方へ年頃十八九とも見ゆる女入り來りて自分は花月の仲居貞子と云ふ者なるが從來他の呉服店にて衣類を購め居りたるも何れも不勉強なるに就き是れより屢々貴店にて買求めたければ値段を精々勉強して與れよと申述べたる辨舌仲々に達者なるものあり見れば突襟も一寸見惚るゝ程美しく服裝も先づは流行向きの者を着け携ゆる洋傘すら夫れ者らしくあるにぞ店員は云ふが儘に數反の反物を取出して見せたるに彼れよと此れよと選りに選りたる後ち價格約九十圓餘の品物を一纏めになし此れだけ買求めたけれど一度花月に歸りたる後ち尚篤と他の仲間にも見て貰ひたければ一先づ花月に持ち歸りたる上必ず買求むべしと云ひぬ秋山商店にては初めての客なれば浮つかり油斷は出來ずと店員をして持たせ遣るべき旨を答へたるに女の方にては別に驚きたる風も無く妾は他に寄る處もあれば夫れには及ばずと尚自分に持ち歸らんとするにぞ此奴愈怪しと見て取り直ちに電話にて花月に問合する處ありたるに女はスワ事露顯したりと察し一寸便所にと云ひ置きて其儘行方不明となりたる由大膽な女もある者かな尚此の女は一見女學生風に近き意氣な美人なりしと

●郵便物紛失

先きに南大門より京城局の間に於て水原より送り來たる郵便物の中現金入りの行囊一個紛失して未だに其の行衛不明なることは前日の本紙に記したる如くなるが尚五月三十一日夜にも同樣現金入りの行囊紛失したるやにて右行囊には六百餘圓入りの者なる由京城局にては何故か之れを秘密に附し居れりと

●刑事を毆る　警視廳刑事巡査金澤權と云ふが昨日午前二時頃壽町を通行の際深更にも係はらず放歌高吟して通行する四名の韓人あるにぞ金刑事は其の心得を注意するに此の四人連れの者は何を小癪なことを吐かすかと金刑事に雜言を吐き尚其の身許を取調ぶるにぞ金刑事は大人しく捕縄手錠等を取出して見せたるも此れにては證據にならずなど大意張りに意張り散らし四人して金刑事に打つて蒐りたるも此方は無論其の位に避易せず直ちに四人の中二名を引縛りたるも殘り二名は行方不明となりたりと引縛られたるは日本人倶樂部の雇人朴順明(十三)李敬昌(二十)と云ふものなりしと

●毆打　東大門外小安洞の者にて當時本町二丁目梅鍋方雇人江界(二〇)と云ふ韓人は先の蝎市屋にて數名の日本人の爲めに毆打されたるを怨み其の仕返しをせん者と心掛け居りたる際旭町二丁目林宇吉(三〇)と云ふが僅かに其の一人ならんと誤解し一昨日林が通行中を見蒐けて突如毆打したるより林より訴へられたるが格別負傷にも至らざりしを以て說諭にて事濟み

●たー二の收入　追々暑氣に向ふにつれて諸種の病氣の發生するは玆に言ふ迄もなき所なるがソレにつけても商賣繁昌なのは賣藥屋及び醫師等なるべしサテ世人も知らるゝ如く例の身には統監府の奏任官に擬ひし金筋金釦の洋服を着け大きな鞄を肩から下げて腹の痛みに胸支ゆれ一二ツと市中を練り歩く賣藥賣子は昨今に至りてメッキリ其の數を殖し來りたるが何れも負けず劣らずの競爭に其の結果らし道にて廻り合ひしときなどは隨分野蠻な喧嘩をさへ遣ッ付くることありとかッマリ彼等が當地に於ける所屬藥舖は總体三個所にして其の中東京の生盛藥館が比較的優勢なりと云ふ又彼等が給金は何れも賣上高の賦合にて三舖共平均賣上高の三割乃至三割五分位なりとされば今より賣上高も多きを來す譯なれば從て彼等れ一二の收入も冬季よりは遙かに多額なるべし

●遺失　南大門外水產會社員樋口源一(一八)は去る九日京城郵便局前より南大門通り迄の間に於て金六圓程入りの財布を遺失して其の筋に屆け出でたり

●蝎甫と立廻る　南署駱洞の蝎甫竹葉(七十)は本年三月十四日日本人一名に壹圓五十錢の約束にて情を賣りたるも其の日本人が金を所持せざりしより煙草入れを置きたるが一昨夜に至り右の日本人は煙草入れを取返しに行きたるも竹葉が渡さぬより大立廻りを初めたる處を警官の爲めに兩人とも引致されたり

●韓人の天然痘　南署明禮坊小龍洞八統七戸李福錄(四十)同九統六戸朱男伊(三十)の兩名は何れも一昨日天然痘に罹れり

●娼妓の健康診斷　一昨日新町遊廓定期健康診斷を施したるに總人員百六十三名の中不健康者四十四名あり自宅診斷を受けたるは皆春樓花絹と京城樓の丸子茂子の三名休業通院は皆春樓薰、櫻木、第一樓かほる梅香、松榮樓の香代子、笑香、政吉、月下樓の小芳南山樓小光、初香等にして其他の不健康者は何れも就業通院のことなれば娼賣道具には格別の破損も無きこととなるべし先づは一寸御馴染方へ知らせ迄斯の如し

●入梅　本日より入梅の期に入る

●帝國議會通鑑の出版　東京文事局にては憲法發布二十年紀念として第一回帝國議會開會より第二十四回に至る帝國議會の事蹟を序に循ひて紹介したる帝國議會通鑑と題する二千八百ページの大冊子を豫約出版をなすこととし目下印刷中にあり豫約價は六圓なりと

●同文館の百科辭書　東京同文館にては昨年來百科辭書の編纂に着手し其第一冊たる商業辭書は既に完成し出版したるが醫學教育の二大辭書は本年秋期全部完成し尚ほ引續き工業、經濟、哲學、法律、農業等順次發行する筈にて此等の大辭書にして完成の上は社會に裨益を與ふること尠少ならざるべし

●開運自在運氣の鑑定書無代配布　東京市神田駿河臺高島易學研究會本部盛文館にては易學大博士高島嘉右衛門先生の九星易學の秘傳を集めたる開運秘法男女一代の運勢注文者には千人を限り運氣の鑑定書一冊宛無代進呈する由

●本町座藝題　本町座に乘り込みたる蜂松一座の新演劇は去る八日より開場し人氣を博し居れるが本日の藝題は一番目『新不如歸』二番目喜劇『野晒』にて重なる役割は左の如し

片岡中將(いろは)順太郎　山本兵三(石巻)靜馬　千々岩安彦(稻村)文雄　母堂慶子(尾崎)茂　近藤三郎(青山)太郎　片岡浪子(阪本)雪夫　山本豐子(杉楽)志夫　川島武夫(峰松)信夫

●天氣豫報(自十日午後六時至十一日午後六時)

くもり

十日午前六時各地氣象概況　一般に風力弱く曇天なり

西の宮お樂の述懷（十）

◎計略見事に外れる

二人のお客さいふは前にも申しました通り軍人さんでムいますから何方も浴びる程の大酒家、其處へ持つて行つて私等二人が大の飲み助さ來て居りますから『此りや酒が無いネ』『姐さん濟みませんがお銚子を』といふ鹽梅で後を〳〵と引きながらナカ〳〵切り上げる模樣が見ゑません其の中に若い方のお客さ連の藝妓が何時消ゑるともなくお坐敷に居なくなりましたので私はハヽアと感付きますと直ぐ今度は自分の番だナといふ氣が胸に浮びますと呼々厭だと思はず太息を吐きましたが私のお相手をして居る方は飲み助の中でも取り分け飲み助ですから始終お銚子許り取り寄せてはグビリ〳〵とやらかして居て容易に御輿を上げそうにも見ゑませんから私は腹の中で如何も惡い量見のやうで何んだか濟まない氣もするが何も此れが大枚の借金といふのではなし高々四十五錢ありア宜いのですから菓子屋の拂は一時後の女が働いたので立て替ゑて貰ふとして私丈は相手が相手だから醉いつぶさして仕舞つて逃げられる丈逃げやうといふ氣を起し『サア旦那お酌を……』と無暗と酒を勸めて居りますと先刻姿を隱した筈の藝妓が出て來まして『お前さん旦那のお酒は宜い加減に切り上げて彼方へお連れ申すがいゝぢやありませんか』と一本參られましたので約束の手前仕方無しに『チー旦那隨分宜い顏色にお成り遊ばしたやうでムいますから御酒は此れでお納めとして兎も角彼方へ往かうぢやありませんか』と無理遣りに手をば取り別室へ案内しました、其の頃の仙台には東京の待合といつたやうな家がありませんからお客と藝妓が關係を付ければツても皆なお茶屋さんなのでムります、ですから吹き込みさへすりア其の家の女中さんが萬事呑み込んで甘く寸法を合せて呉れるやうに出來て居りますが之れは前にも申し上げました通り極くの秘密さいふ一件なんですから若し見咎められはしまいかさいふ氣が先に立つて何の位ハラ〳〵もんでしたか知れやあしません併し旨い工合に見咎められず御祝儀の外に餘分のお金を頂戴して十二時少し過に歸つて參りましたが其の途々『ねゑお前さん今夜位ヒヤ〳〵した晩はありやしない此れを思ふとお金さいふものは芯いもんだツチ』『ソレに相違ないよ約束だから仕方は無いと胸は據にて居ても其の場に臨むと立ち後れがして實は私は相手を醉い潰ぶさして逃げやうと思つたのさ』『什麼も私もそうだらうと感付いたから態々意ヨ地に催促をしてやつたのさ……人にばかり憂目を見せやうとしたつてそう旨くは問屋で卸さないからネ』『ダカラ私も往生したのさ併しまづ此れで借金を返せると思ふとチツとは諦めもつくさいふものですネ』